

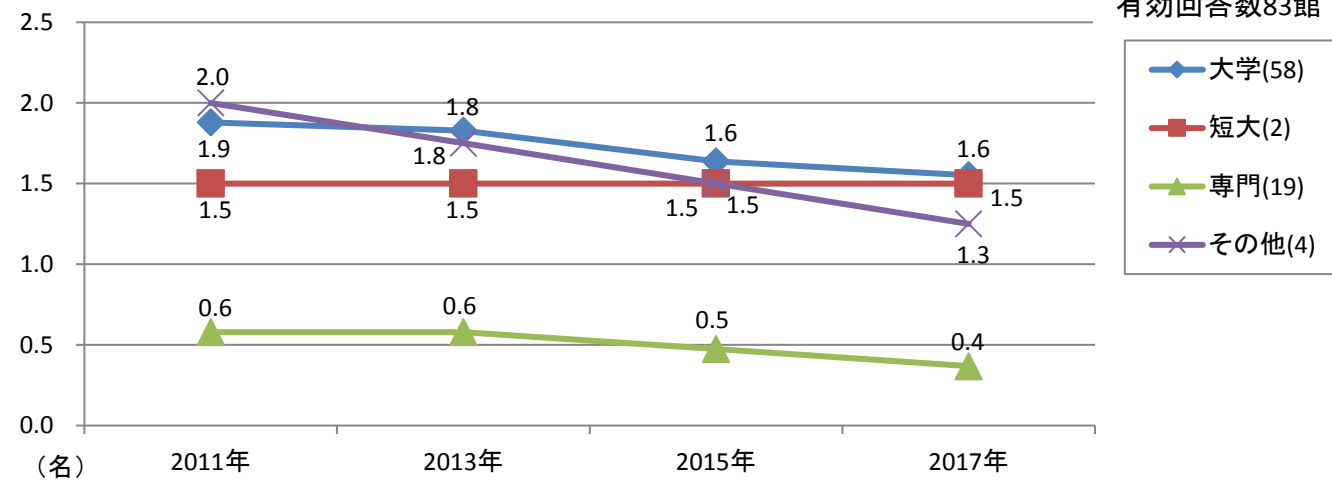
*** グラフでみる実態調査 ***

* 職員数の推移 *

(正規職員・専任)

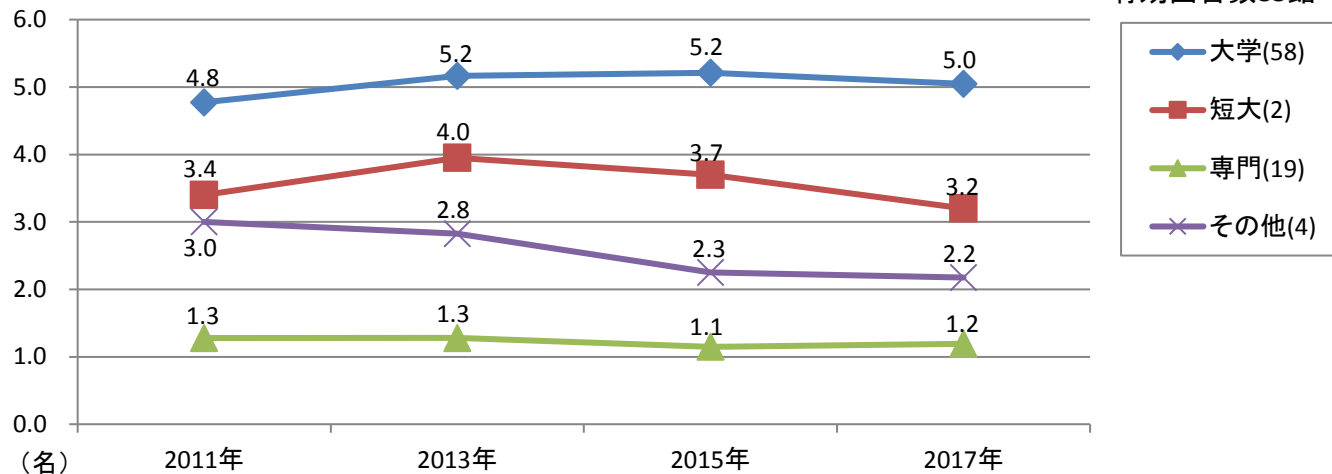
比較4年間加盟館を対象とする

有効回答数83館



(全職員数)

有効回答数83館

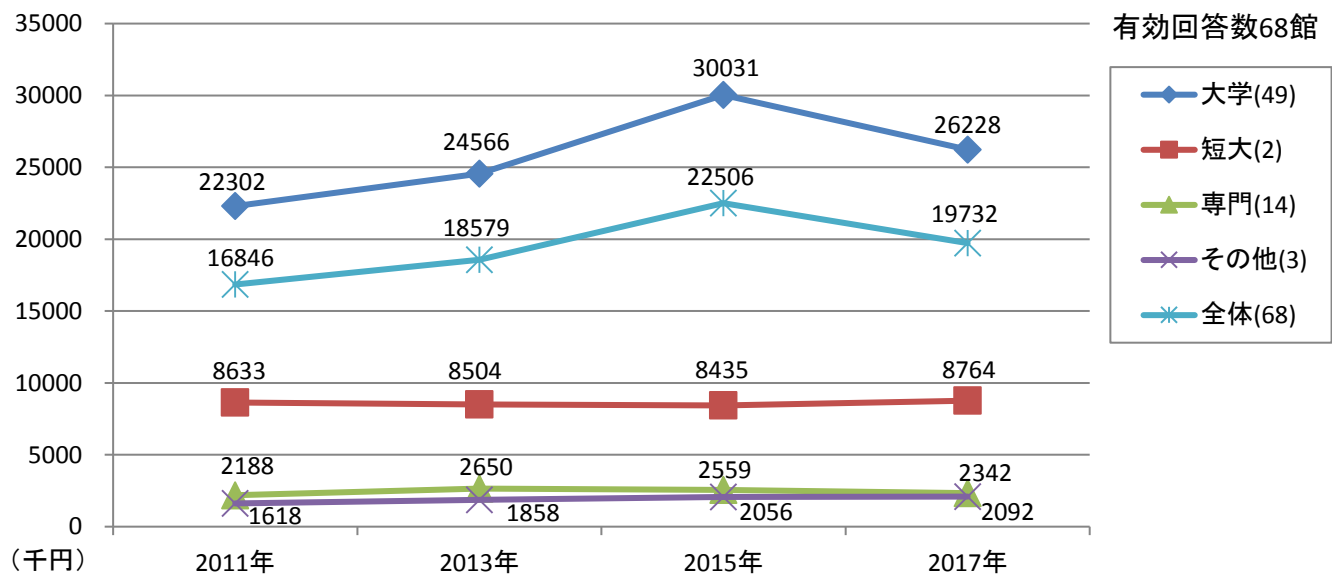


* 年間資料購入費の推移 *

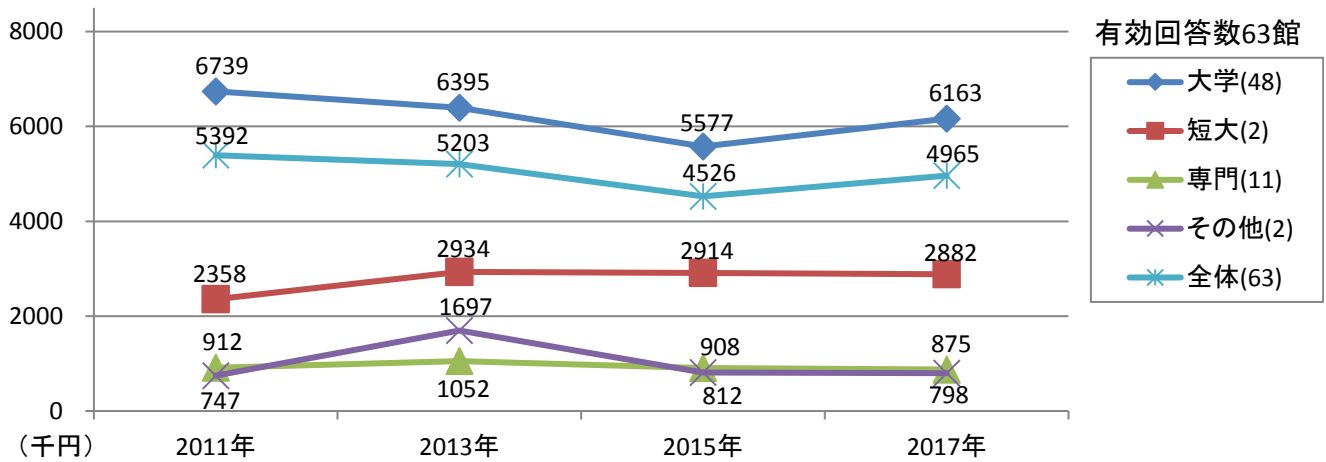
(全体)

比較4年間加盟館を対象とし数値「0」の館を含む、「f」の館を除く

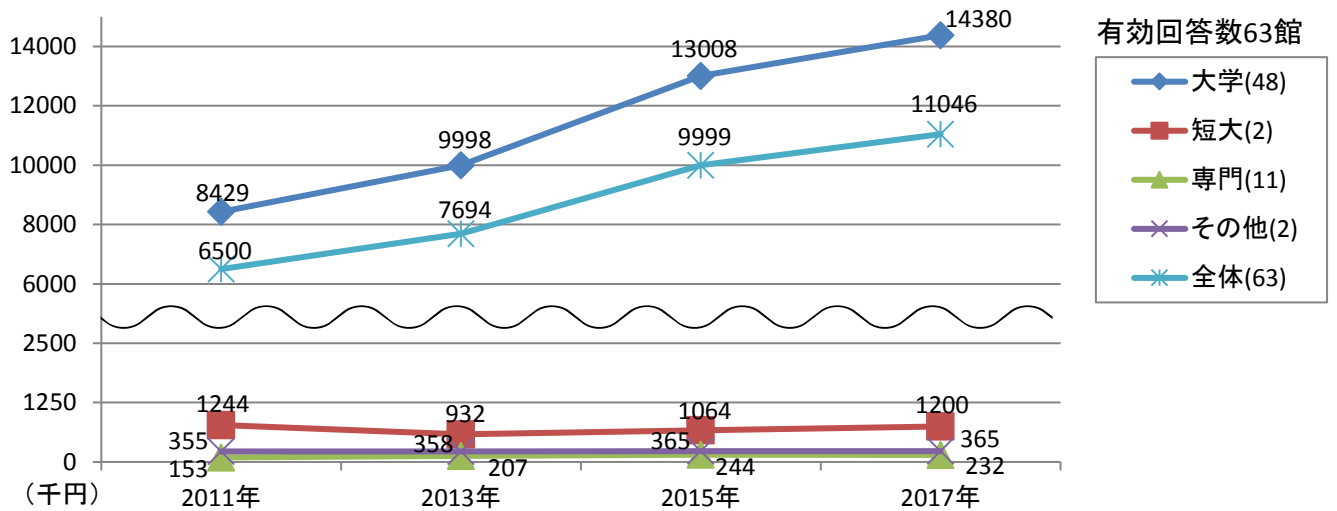
有効回答数68館



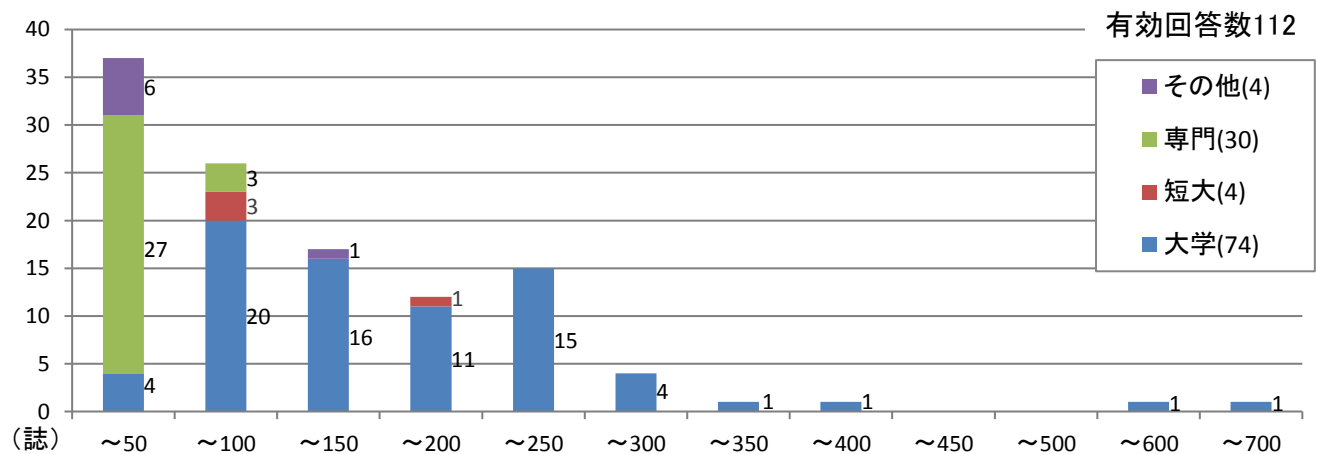
(逐次刊行物)



(電子情報資源)



* 購入雑誌タイトル数 *



* 購入雑誌タイトル数平均値 *

*平均値は小数点以下四捨五入

年度	2009		2013		2014		2015		2016		2017	
	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数
大学	74	411	78	210	76	198	70	185	68	166	74	160
短大	10	135	7	117	6	93	3	105	5	94	4	104
専門	34	124	36	42	31	39	35	41	30	39	30	36
その他	7	359	6	73	6	65	4	67	4	67	4	66

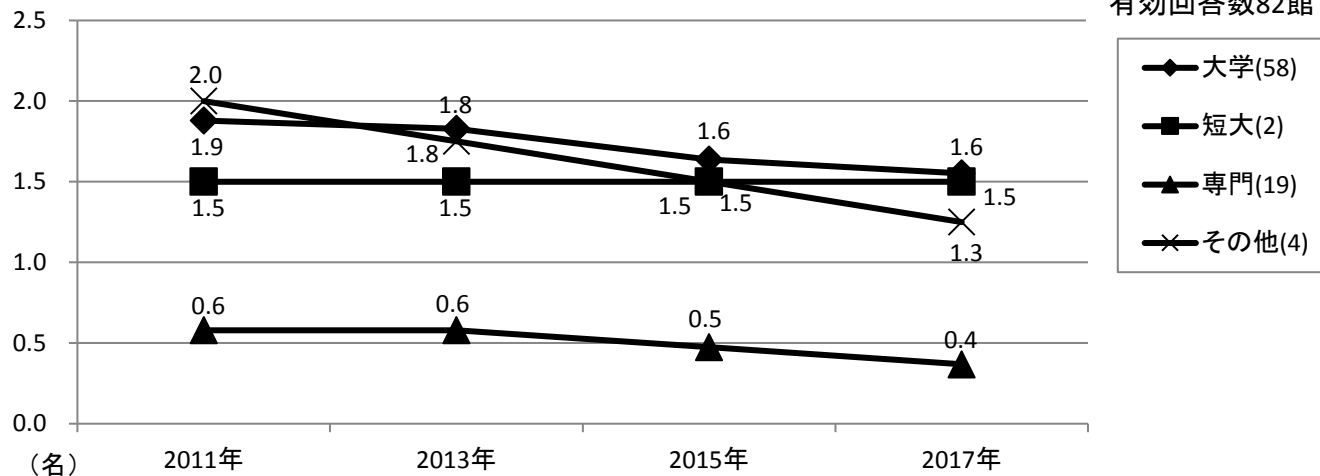
* 全体の平均数は、大学160誌・短大104誌・専門36誌・その他66誌であった。平均値をみると、短大は増加しているが、大学・専門・その他の平均タイトル数は減少している。大学は2009年より減少し続けている。

* 職員数の推移 *

(正規職員・専任)

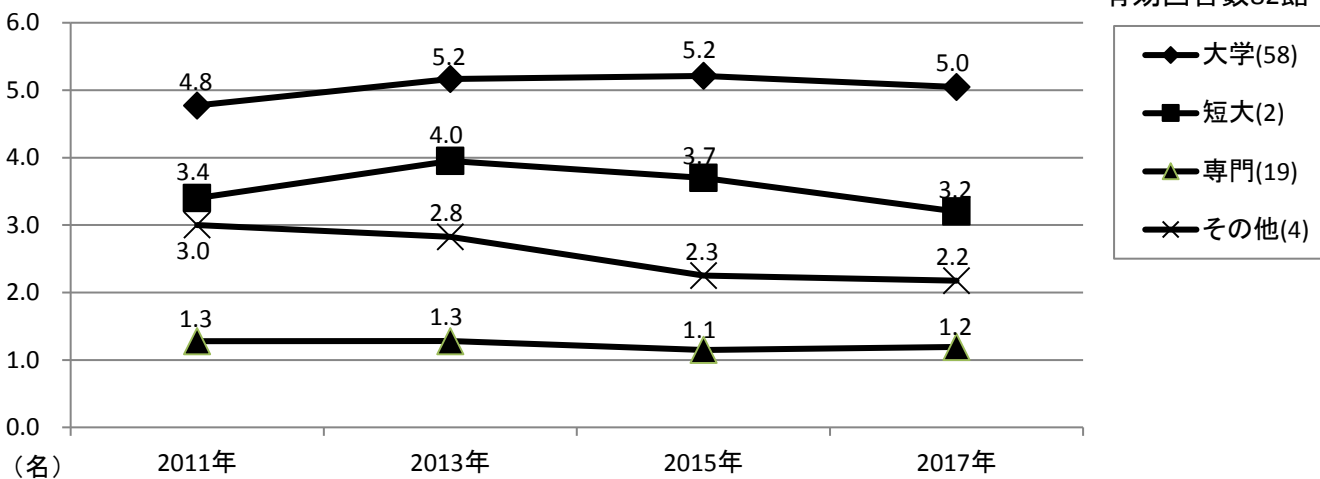
比較4年間加盟館を対象とする

有効回答数82館



(全職員数)

有効回答数82館

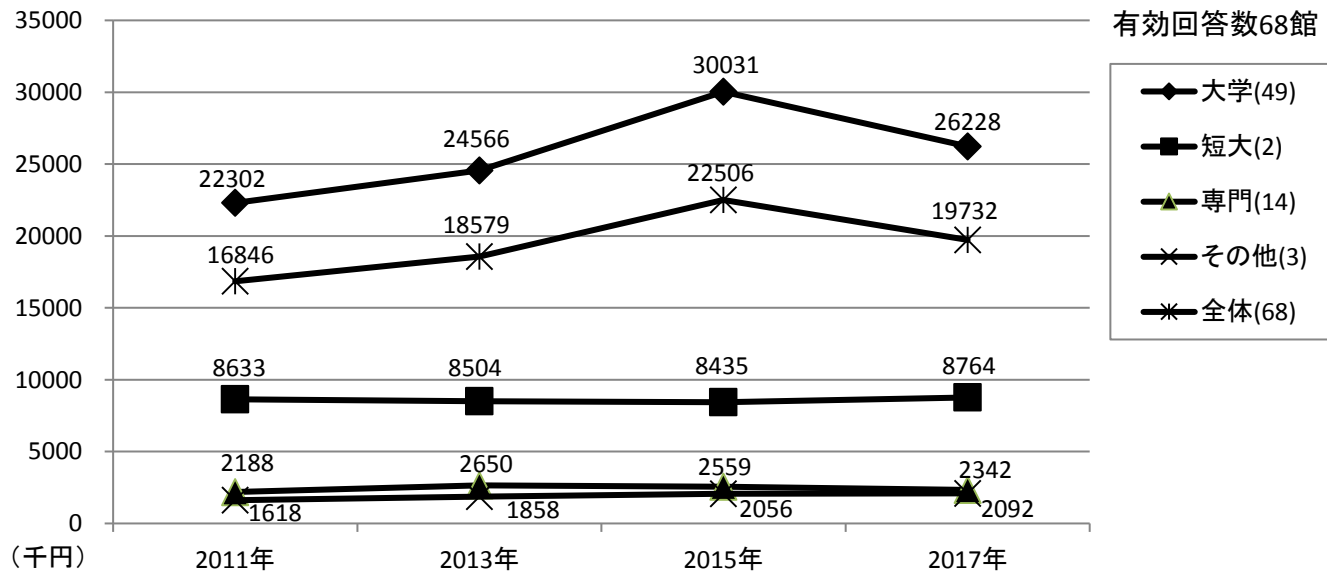


* 年間資料購入費の推移 *

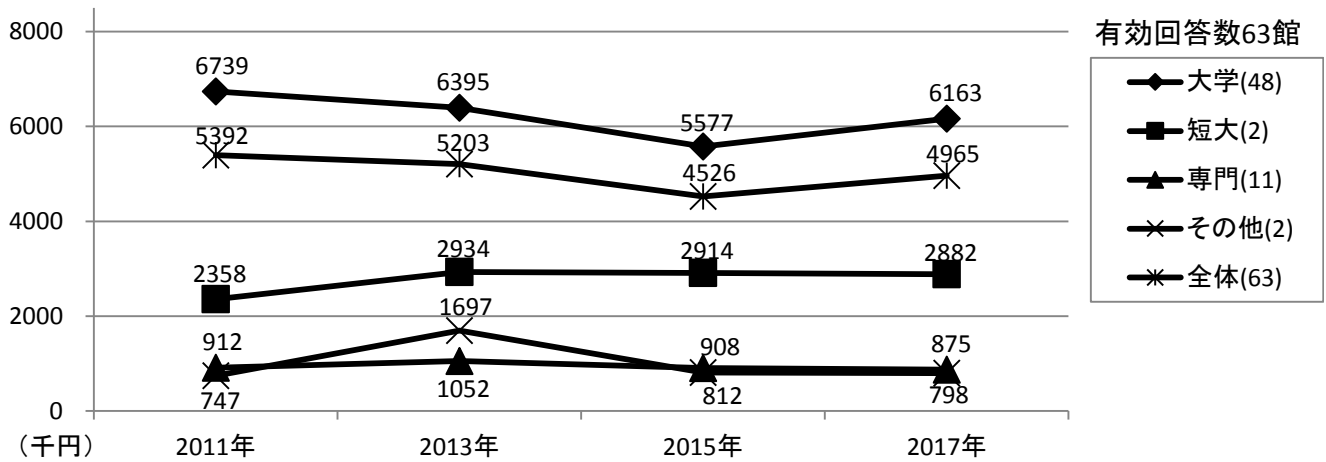
(全体)

比較4年間加盟館を対象とし数値「0」の館を含む、「f」の館を除く

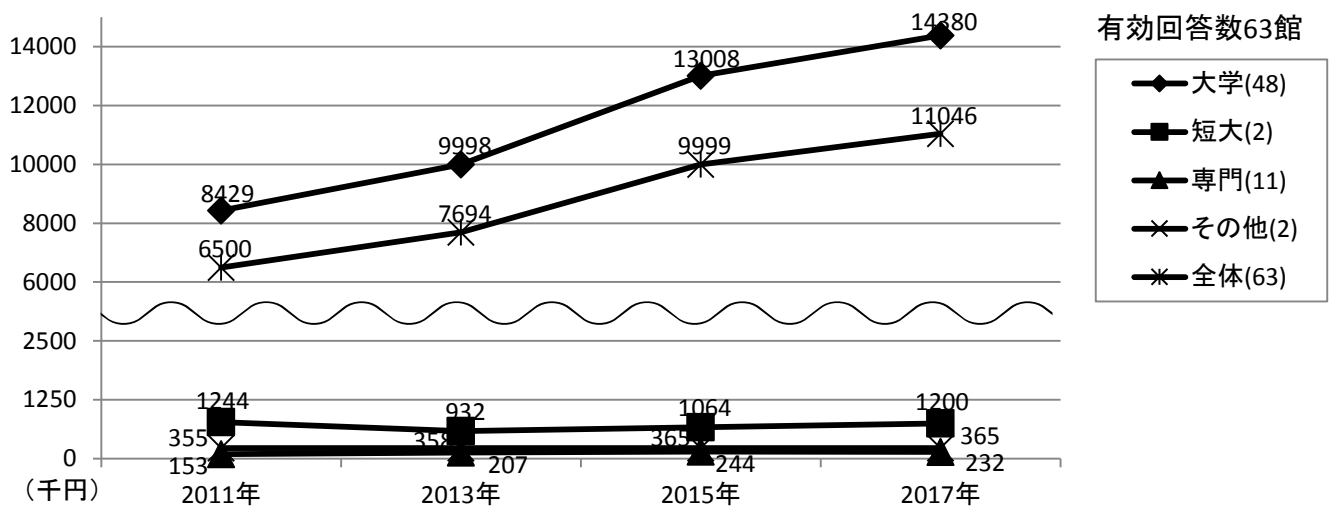
有効回答数68館



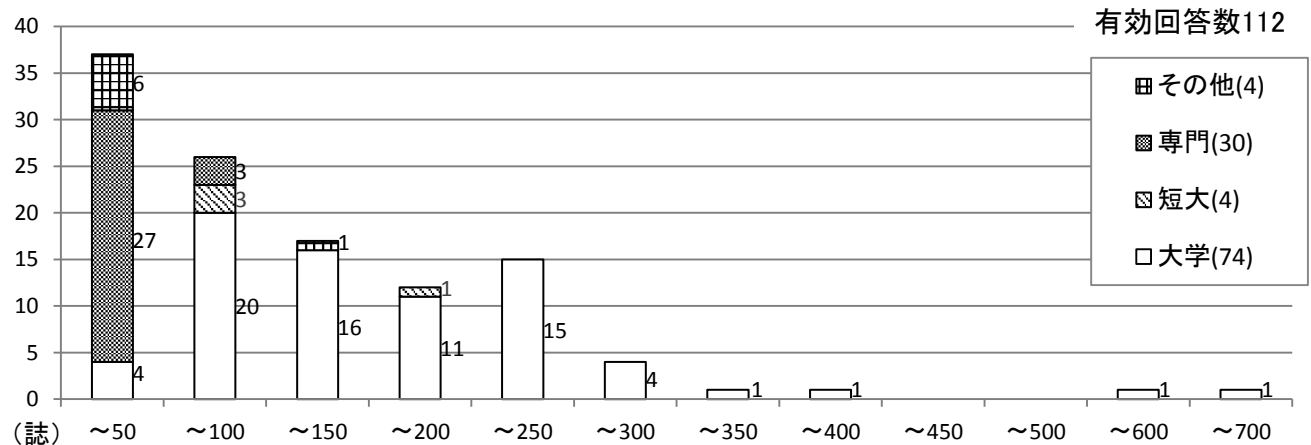
(逐次刊行物)



(電子情報資源)



* 購入雑誌タイトル数 *



* 購入雑誌タイトル数平均値 *

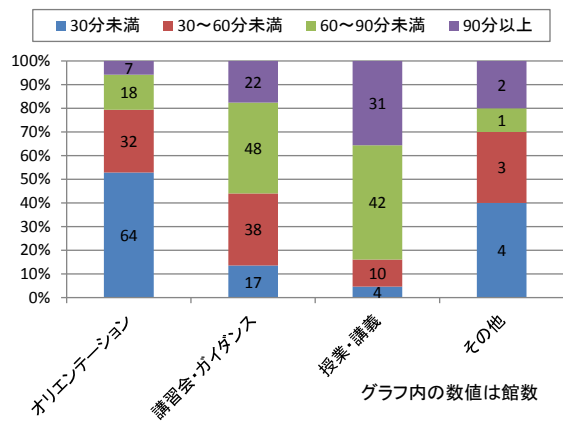
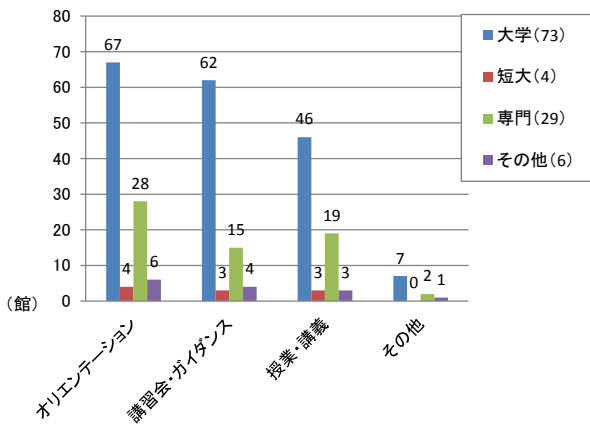
*平均値は小数点以下四捨五入

年度	2009		2013		2014		2015		2016		2017	
	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数
大学	74	411	78	210	76	198	70	185	68	166	74	160
短大	10	135	7	117	6	93	3	105	5	94	4	104
専門	34	124	36	42	31	39	35	41	30	39	30	36
その他	7	359	6	73	6	65	4	67	4	67	4	66

*全体の平均数は、大学160誌・短大104誌・専門36誌・その他66誌であった。平均値をみると、短大は増加しているが、大学・専門・その他の平均タイトル数は減少している。大学は2009年より減少し続けている。

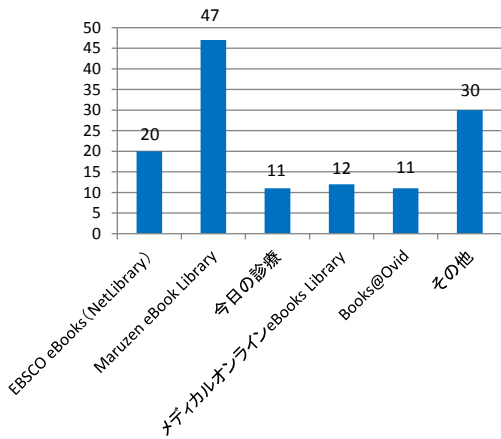
利用教育

有効回答数112館



電子ブック導入状況

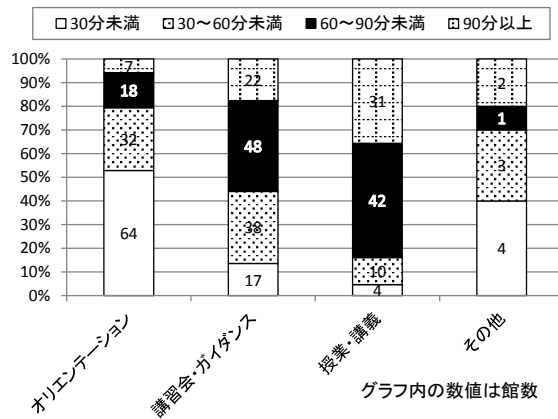
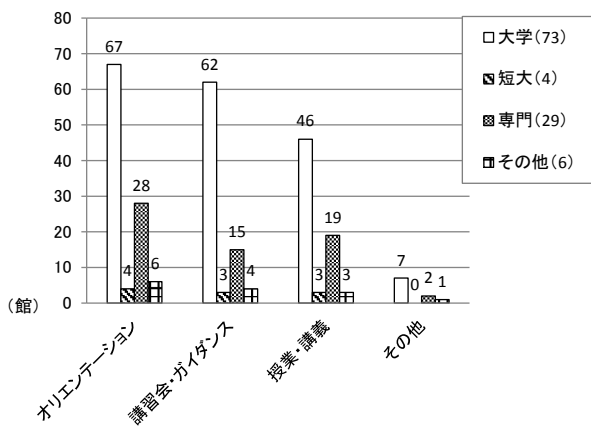
有効回答数54館



- * 設問から導入館が11館以上の5種と、10館未満のものを合計を「その他」としてグラフにした。
- * Maruzen eBook Library(47館)、EBSCO eBooks (NetLibrary) (20館)の利用が多い。
- グラフに含まれない自由回答のものは12種あり、すべて1館のみ導入しているものである。
- * 電子ブックの導入館は54館(大学52館、短大0館、専門1館、その他1館)であった。
- * 電子ブックを資産にしている導入館は31館であった。

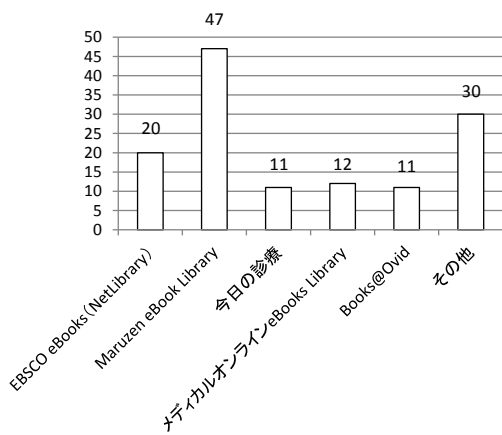
利用教育

有効回答数112館



電子ブック導入状況

有効回答数54館



- * 設問から導入館が11館以上の5種と、10館未満のものを「その他」としてグラフにした。
- * Maruzen eBook Library (47館)、EBSCO eBooks (NetLibrary) (20館)の利用が多い。
- グラフに含まれない自由回答のものは12種あり、すべて1館のみ導入しているものである。
- * 電子ブックの導入館は54館(大学52館、短大0館、専門1館、その他1館)であった。
- * 電子ブックを資産にしている導入館は31館であった。

* 相互貸借 *

有効回答数

	大学	短大	専門	その他	合計
2011年	76	10	27	7	120
2013年	78	7	28	6	119
2015年	70	3	29	4	106
2017年	74	4	30	4	112

有効回答数:112館

相互貸借(複写)は、大学、短大、その他の機関すべてで行われており、専門学校では22館(76%)に実績があった。

依頼、受付ともに減少傾向であり、特に大学では2011年平均と比べ半減した。

2017年度(複写)(平均値は小数点以下四捨五入)

実施館数	大学		短大		専門		その他	
	総数	平均値	総数	平均値	総数	平均値	総数	平均値
依頼	35,258	476	454	114	829	38	478	120
受付	33,186	448	205	51	85	4	436	109

複写依頼(平均)

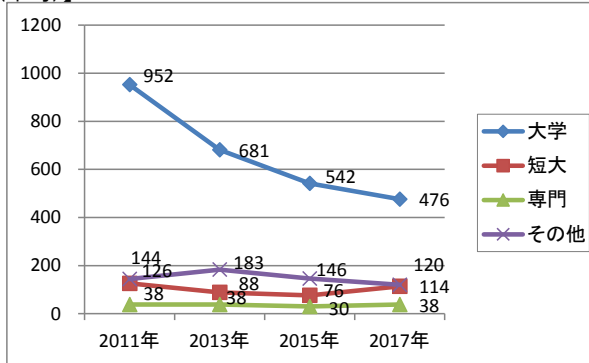
	大学	短大	専門	その他
2011年	952	126	38	144
2013年	681	88	38	183
2015年	542	76	30	146
2017年	476	114	38	120

複写受付(平均)

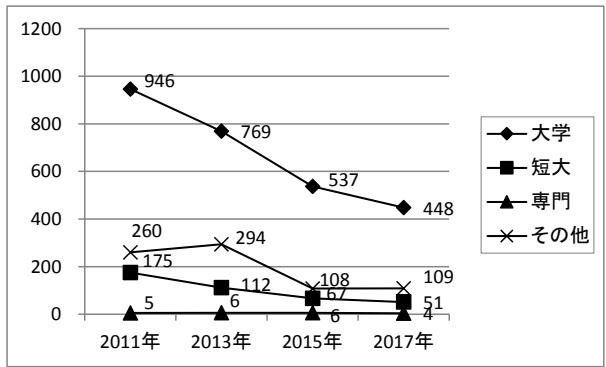
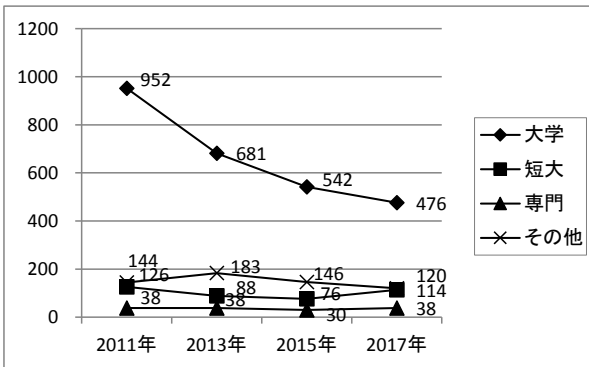
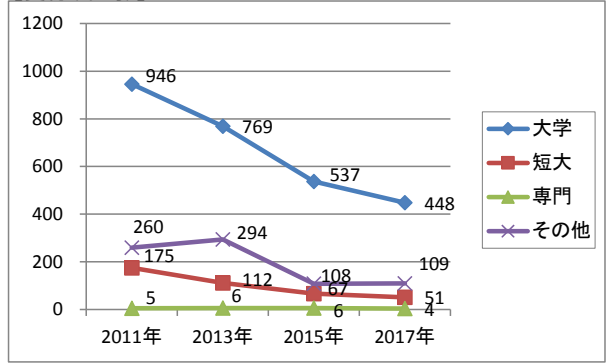
	大学	短大	専門	その他
2011年	946	175	5	260
2013年	769	112	6	294
2015年	537	67	6	108
2017年	448	51	4	109

*2011年, 2013年, 2015年のデータは2016年度実態調査報告による

【依頼(平均)】



【受付(平均)】



* ラーニングcommonsの設置状況 *

(単位:校)

設置数	設置率	設置校の席数の規模								
		0~20席	~40席	~60席	~80席	~100席	~150席	~200席	~300席	無回答
36校	32.0%	8	6	7	5	1	3	2	1	3

※「設置」との回答があったのは、大学35校、専門1校

電子ジャーナル・データベース導入状況

(全体の動向 2017年度)

	対象館数	(1)二次資料DB利用	(2)EJ導入	
大学	74	74	68	91.9%
短大	4	4	1	25.0%
専門	30	27	5	16.7%
その他	4	4	1	25.0%
合計	112	109	75	67.0%

(有効回答数)112館
 二次資料データベースは、有効回答(112館)の97.3%にあたる109館(大学74館、短大4館、専門27館、その他4館)が導入している。
 電子ジャーナルは、75館(大学68館、短大1館、専門5館、その他1館)が導入している。
 (これらの結果には、大学等・本館などの予算で購入されているものを含む)

このワークシートには、以下の図表とコメントがあります。
 図(グラフ)には、カラーとモノクロがあります。

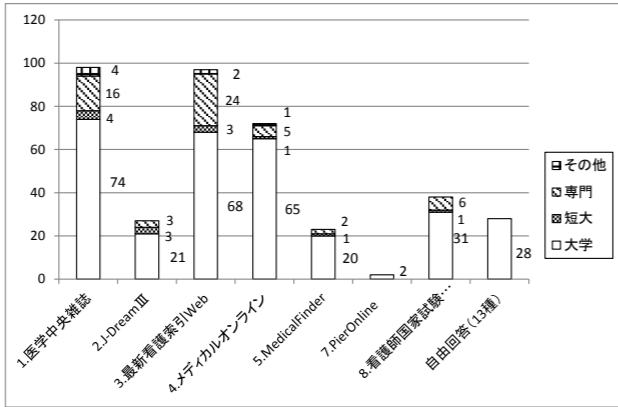
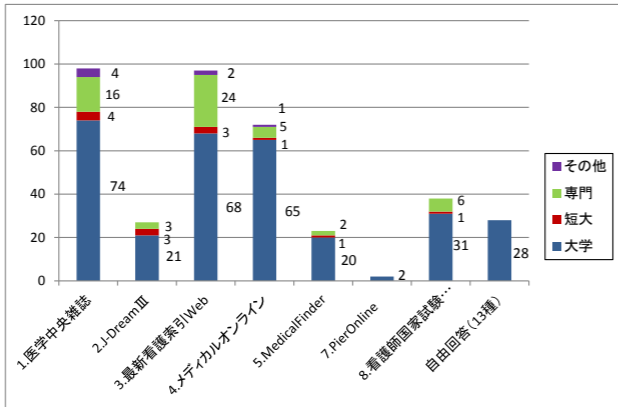
- 全体の動向(表、コメントあり)
- 国内の状況(自由回答分を一括にしたもの)(図表、コメントあり)
- 国外の状況(自由回答分を一括にしたもの)(図表、コメントあり)
- 国外の状況:特に多く導入されたもの(図表のみ)
 (上位10種を個別に、下位10種と自由回答(22種)をまとめたもの)

(国内の状況 2017年度)

名称	大学	短大	専門	その他	件数
1.医学中央雑誌	74	4	16	4	98
2.J-DreamⅢ	21	3	3	0	27
3.最新看護索引Web	68	3	24	2	97
4.メディカルオンライン	65	1	5	1	72
5.MedicalFinder	20	1	2	0	23
7.PierOnline	2	0	0	0	2
8.看護師国家試験問題Web	31	1	6	0	38
自由回答(13種)	28	0	0	0	28
総計					395

※「6.CiNii」について調査票では(機関定額制)と表記しましたが、2017年4月より(機関認証制)に移行しております。よって、今回の集計の対象からは外しました。

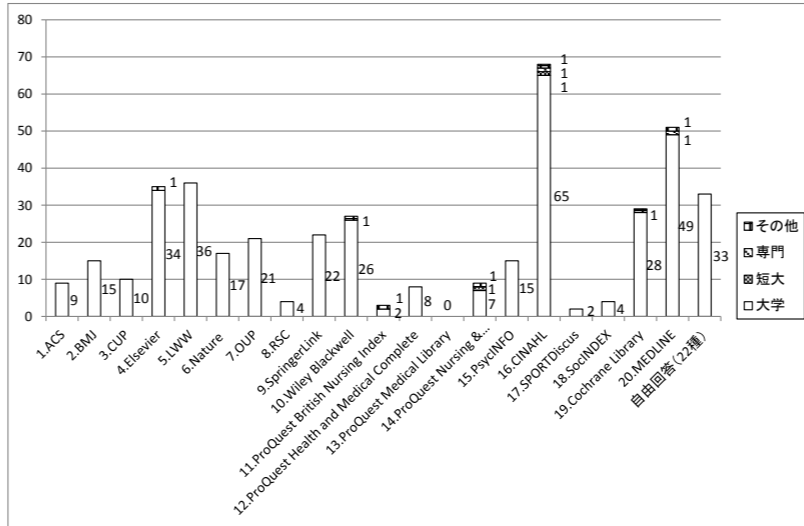
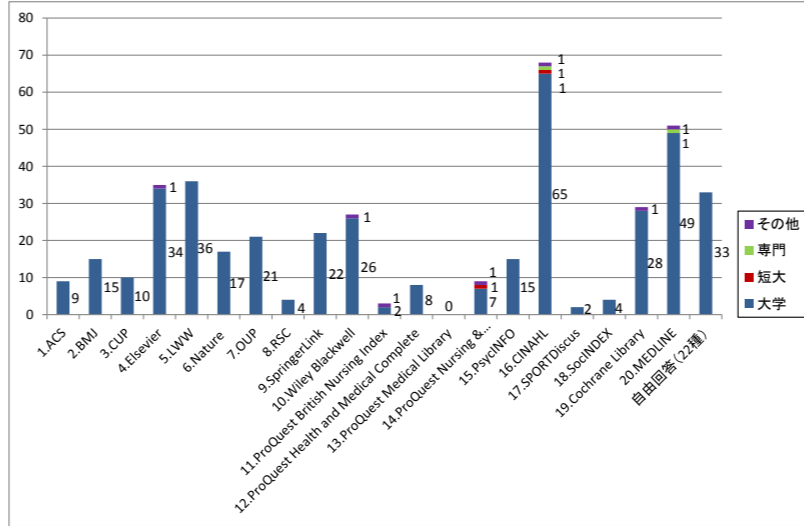
国内では、医中誌Web(98館)、最新看護索引web(97館)と、メディカルオンライン(72館)の導入が多い。大学、短大、その他では医中誌Webが、専門学校では最新看護索引webが最も多く導入されている。
 自由回答には13種類が挙げられ、導入が多かったのは開蔵Ⅱ(9館)、Japan Knowledge(4館)であった。



(国外の状況 2017年度)

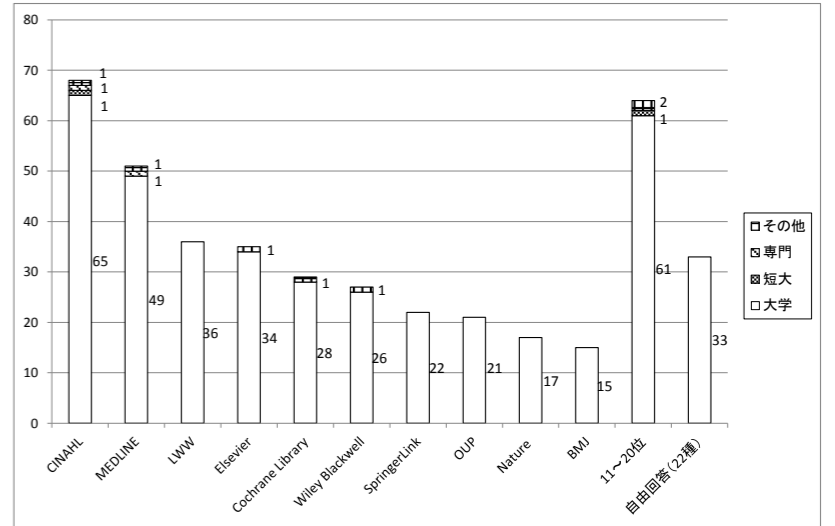
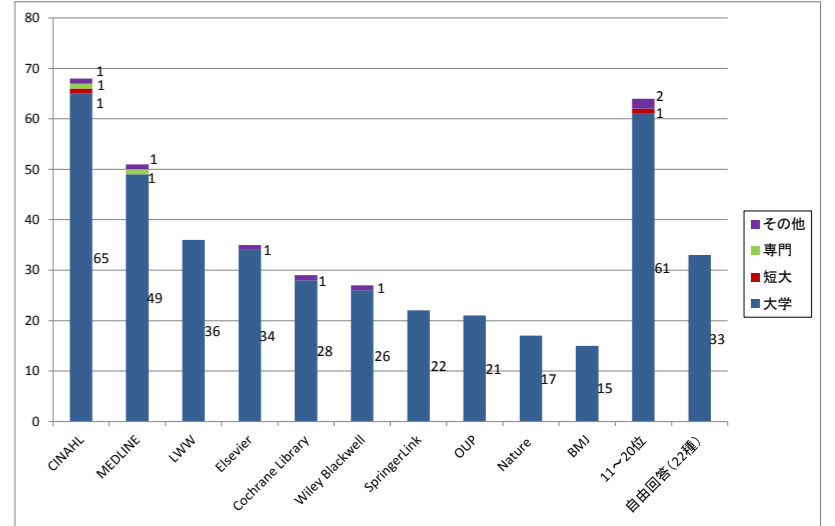
名称	大学	短大	専門	その他	件数
1.ACS	9	0	0	0	9
2.BMJ	15	0	0	0	15
3.CUP	10	0	0	0	10
4.Elsevier	34	0	0	1	35
5.LWW	36	0	0	0	36
6.Nature	17	0	0	0	17
7.OUP	21	0	0	0	21
8.RSC	4	0	0	0	4
9.SpringerLink	22	0	0	0	22
10.Wiley Blackwell	26	0	0	1	27
11.ProQuest British Nursing Index	2	0	0	1	3
12.ProQuest Health and Medical Complete	8	0	0	0	8
13.ProQuest Medical Library	0	0	0	0	0
14.ProQuest Nursing & Allied Health Source	7	1	0	1	9
15.PsycINFO	15	0	0	0	15
16.CINAHL	65	1	1	1	68
17.SPORTDiscus	2	0	0	0	2
18.SocINDEX	4	0	0	0	4
19.Cochrane Library	28	0	0	1	29
20.MEDLINE	49	0	1	1	51
自由回答(22種)	33	0	0	0	33
総計					418

国外で多く導入されていたのは、CINAHL(68館)とMEDLINE(51館)であった。
 電子ジャーナルの購入にあたり、コメントではパッケージ全体ではなく、一部の雑誌のみを購読しているという記述が複数あった。
 自由回答ではのべ33館で22種類が挙げられ、うち14種類は1館ずつの導入である。
 自由回答で導入が多かったのは"Dyna Med", "Ovid Nursing Full Text", "Sage"(いずれも3館)であった。



(国外の状況:特に多く導入されたもの 2017年度)

名称	大学	短大	専門	その他	件数
CINAHL	65	1	1	1	68
MEDLINE	49	0	1	1	51
LWW	36	0	0	0	36
Elsevier	34	0	0	1	35
Cochrane Library	28	0	0	1	29
Wiley Blackwell	26	0	0	1	27
SpringerLink	22	0	0	0	22
OUP	21	0	0	0	21
Nature	17	0	0	0	17
BMJ	15	0	0	0	15
11~20位	61	1	0	2	64
自由回答(22種)	33	0	0	0	33
(11~20位の詳細)					
PsycINFO	15	0	0	0	15
CUP	10	0	0	0	10
ACS	9	0	0	0	9
ProQuest Nursing & Allied Health Source	7	1	0	1	9
ProQuest Health and Medical Complete	8	0	0	0	8
RSC	4	0	0	0	4
SocINDEX	4	0	0	0	4
ProQuest British Nursing Index	2	0	0	1	3
SPORTDiscus	2	0	0	0	2
ProQuest Medical Library	0	0	0	0	0
自由回答(22種)	33	0	0	0	33
(総計)					418



23. 図書・雑誌等資料の保存スペースを確保するために取り組んでいること

取り組みの記入があった館数：

大学・短大：27 館， 専修学校・その他：16 館

【大学・短大】

1	毎年除籍作業をしている。除籍対象図書は、重複図書で受入より 20 年経過したものは 1 冊、していないものは 2 冊保存。改版された図書は 1 冊保存。その他、利用価値を失ったもの（パソコン操作マニュアルなど）。除籍図書は教職員・学生の希望者に譲渡している。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書については規程に基づき除籍を行っている。 ・ 雑誌については冊子と電子で重複して購入しないようにし、またオープンアクセスになっている紀要等は受入れを中止している。
3	<p>図書・雑誌共に</p> <ul style="list-style-type: none"> ①電子版での購入を推進する。 ②固定書架の書庫を全面集密書架に切替えた。 ③冊子体資料の廃棄 <p>・ 2 次資料 ・ 重複所蔵図書</p>
4	現状では、除籍、処分等で保存スペースを確保するしかありません。
5	除籍
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集密書架を導入する。 ・ 除籍を毎年定期的実施する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵書構築方針を改訂、保存基準による必要保存スペースを検討中である。 ・ 予算化して電子ジャーナルでバックファイルを購入している。
8	教員に協力してもらい保存図書選定を実施している。
9	定期的な廃棄を行う。

10
<p>図書については、受入から一定年数が経過し貸出利用が少ない資料の閉架書庫への移動、除籍(学内他キャンパスへの移管も含む)を不定期に行っている。雑誌については、J-Stage や機関リポジトリなどオンライン(フリー)で利用できるもの、選択的に購読・受入の中止を始めている。</p>
11
<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑誌の一部を、図書館外のスペースに移管 ・ 図書の除籍を、教員の理解が得られるところから実施 ・ 雑誌の、冊子体から電子ジャーナルへの切り替えを進める ・ リポジトリ等で利用できる紀要の、冊子版の除籍
12
<p>電子版(電子ジャーナル)へのアクセスによって提供できる資料については、冊子物を廃棄することで書架スペースの確保を行っている。</p>
13
<p>古い図書の除籍。看護・医療関係以外の図書の除籍、他キャンパスへの移管。</p>
14
<p>図書については内容が古く誤りがあるものや、問題集等は1年に1度除籍をしています。</p>
15
<p>除籍を積極的に行っている。</p>
16
<p>新設図書館に移設したため、現在のところ開架の保存スペースは空いている。書庫(閉架)はほとんど一杯なので、書庫の不要な図書の廃棄をすることを今後検討する。</p>
17
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新版を受け入れたら旧版を開架書庫から閉架書庫に移動する。 ・ 現在のところ保存スペースが確保できなくて困っているという事はないが、将来を見据えて、図書を除籍細則に基づいて除籍できる体制を整えている。
18
<p>電子版のバックファイルを購入し、当該冊子体を廃棄してきたため、現在は解消しています。</p>
19
<ul style="list-style-type: none"> ・ 逐次刊行物の保存期間短縮の検討 ・ 自然科学系・情報科学系の内容が古いものについての除却、廃棄。 ・ 重複図書の除却、廃棄。

20
<p>2017年度は、特に看護学部学部長からの申出があり、PI図書館の共用館としての利用促進を推進するため、ワーキンググループを立ち上げ期間限定で喫緊の課題解決としての書架の狭隘化緩和に取り組んだ。図書館運営委員会を収集し、狭隘化緩和の第一段階として、現状配架の資料について、PIキャンパス図書館を使用している短期大学3学科および大学2学部3学科の教員全員に各自の専門分野および教養分野等について、29年度内の1月末を期限として、直截図書館に出向いて資料の要・不要の選別作業を行って頂いた。当該資料については、全体の利用バランスについては図書館の利用状況等と比較しながら、「除籍可能対象資料」として整理箱詰めし、別途保管室を事務サイドと相談して指定してもらい保管を行い、今後は財務と除籍計画を立てながら順次除籍を行う予定にしている。</p>
21
<p>複本がある古い資料を除籍している。</p>
22
<p>廃止となった短期大学（経営学科、生活学科）の資料を同学園の他キャンパスへ移管。また、譲渡希望の教員へ譲渡。その他、内容が今日的な利用の意義を失ったと判断された資料を（2017年度）除籍している。</p>
23
<p>① 利用不能となった資料は、廃棄処分を行っている。 ② 新聞・一般雑誌については、資料ごとに保存年限を定め、保存期限超過後は廃棄処分を行っている。 ③ 2018年度から他大学の年報については、ホームページ等でも見られるため受入しないこととした。 ④ 教員が研究費等で購入した資料は図書館に帰属しており、不要時もしくは退職時に返却された資料については、2016年度から図書館に必要な資料のみ受入をしている。 ⑤ 本学の研究・教育活動と直接関係のない分野の紀要・雑誌については、送付を謝絶している。 ⑥ 洋雑誌については、冊子体での購入は1誌のみ。他は電子ジャーナルやアグリゲータで購入している。（経費節減のための切り替えだったようだが、結果的に保存スペースの確保につながっている。）</p>
24
<p>毎年多くの資料を除籍している。</p>
25
<p>図書については、一定年数を経過して資料価値が下がったものや複本が多数あるものの除籍を毎年行っている。 逐次刊行物については、保存年限を定めているもののみ毎年廃棄処分を行っている。</p>

26
雑誌保存年限を定め保存期間を過ぎた雑誌は除籍を行い、複本のある図書については今後除籍を検討し、少しでもスペースを確保したいと考えている。
27
購読を継続していない雑誌について、定期的に必要性を教員に確認し、必要がないものを廃棄。

【専修学校・その他】

1
除籍基準に基づき、除籍している。
2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵書の廃棄によってスペースを確保している。 ・ 図書、雑誌それぞれについて廃棄基準を定めている。(白書など：5～10年、雑誌：1年～15年、永年保存) ・ 学内で古書(献本、個人持ちなど)の一斉廃棄を行うタイミングで、全ての教員(領域ごと)に廃棄候補のピックアップをお願いしている。
3
<ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵書点検後、廃棄本を選別し希望の学生、教員に配布 ・ 版が変わった教科書は隣接する病院図書室に寄贈
4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の除籍、雑誌の古い年度の処分を定期的実施 ・ 日頃から資料保存スペースが不足していることを周囲に伝えておき、構内に空きスペースやロッカーの空きが出た時は、図書室の保管場所として確保できないか交渉する。 ・ 条件(安定性、価格面等)が良ければ、購読雑誌を冊子体から電子ジャーナルに切り替える。
5
<ol style="list-style-type: none"> 1. 雑誌は10年、年鑑・白書・年報類・医薬品事典は5年、国家試験過去問・看護法規類は3年、教科書は2版前以降で除籍している。 2. 図書は年2回除籍を行っている。 3. 除籍後、一部資料は教員・関連病院にリサイクルを行っている。 4. 永年保存資料のうち利用がほぼない資料は書庫内でオリコンに入れて保管している。
6
相当の年数を経過し現状にまったくそぐわない単行書及び未製本雑誌は除籍していません。

7	<ul style="list-style-type: none"> 雑誌については、永年保存対象誌以外は保存期限を10年と定め、1年に1度重複雑誌交換事業にリストを提出後、廃棄している。 雑誌製本も以前は全資料対象だったが、永年保存分のみ継続し、それ以外は原紙での保存に変更し廃止した。
8	<p>図書等の除籍及び廃棄要領に基づき、年に1～2回資料の除籍及び廃棄を行っている。</p>
9	<p>資料の保存期間を定め、定期的に資料整理と廃棄を行っている。昨年度は、図書室内のレイアウトの変更を行ったため、今後の書架の増設について検討している。</p>
10	<p>10～20年近く前に出版されており複本がある・状態が悪い図書、古い病名がタイトルに使用されている(ex.成人病)ような図書は除籍・廃棄を進めている。</p>
11	<p>除籍内規に基づき積極的に除籍を実施している。</p>
12	<p>新着図書が増えてくると書架に入れるスペースがなくなるので、古くなったり、所蔵の必要がなくなった資料を集めて教員にも確認してもらいながら除籍をしている。</p>
13	<p>除籍基準を設けており、時間のある時に少しずつ書架をチェックし、除籍候補リストを蓄積するようにしています。年に一度大きく除籍します。</p>
14	<p>年に一度、除籍処理を実施</p> <p>書架の増設（H19年10月に開架書棚、H22年6月に開架書棚、H25年8月に移動書庫1列、H26年8月に開架書棚）</p> <p>開架書棚および移動書庫用棚板の増設（H27年10月）</p> <p>ブックトラック2台購入（H29年1月）</p>
15	<p>熊本地震により2016年から製本中止。書庫はありませんが、複本など一部倉庫に別途保管。</p>
16	<p>図書・雑誌別に除籍基準を設け、基準に沿って毎年除籍を行っている。</p>